

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校静岡電子情報カレッジ
設置者名	学校法人中村学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程 (商業実務分野)	音響&映像メディア クリエイト学科 (音響エンタメ研究)	夜・通信	1536 単位時間	160 単位時間	
	音響&映像メディア クリエイト学科 (映像メディア研究)	夜・通信	1152 単位時間	160 単位時間	
専門課程 (工業分野)	IT ゲーム&ロボットシステム学科 (ゲームシステム研究)	夜・通信	1568 単位時間	160 単位時間	
	IT ゲーム&ロボットシステム学科 (ロボットシステム研究)	夜・通信	928 単位時間	160 単位時間	
	IT ゲーム&ロボットシステム学科 (ITスペシャリスト研究)	夜・通信	1120 単位時間	160 単位時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

URL : <a href="https://www.can.ac.jp/denshi/info/information/">https://www.can.ac.jp/denshi/info/information/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校静岡電子情報カレッジ
設置者名	学校法人中村学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ、学内掲示板 <a href="https://www.can.ac.jp/denshi/wp-content/uploads/2025/06/b004f6038f765fcea25f18336da41114.pdf">https://www.can.ac.jp/denshi/wp-content/uploads/2025/06/b004f6038f765fcea25f18336da41114.pdf</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	設計事務所 所長	令和7年6月6日～ 令和11年6月5日	運営・教育的助言
非常勤	福祉協会 役員	令和7年6月6日～ 令和11年6月5日	運営・教育的助言
非常勤	静岡市議会議員	令和7年6月6日～ 令和11年6月5日	運営・教育的助言
非常勤	医師	令和7年6月6日～ 令和11年6月5日	運営・教育的助言
非常勤	静岡県議会議員	令和7年6月6日～ 令和11年6月5日	運営・教育的助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校静岡電子情報カレッジ
設置者名	学校法人中村学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>教育課程を編成するにあたっては、学校として設置している「教育課程編成委員会」で得られる関係機関・団体等の養成を十分に活用し、専門課程の専攻分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成している。</p> <p>〔授業計画作成の過程〕</p> <p>①科目における目標・概要を設定、各回のテーマ、課題、評価方法等を検討する。</p> <p>②教科書を使用するか検討し、使用の場合は教科書を通読する。副教材を使用する場合も同様で、配布資料・パワーポイント等を作成し、それぞれ授業回数に割り振りながら授業計画を作成する。</p> <p>③最後に、以下の項目についてきちんと記載されているかを、学科ごとに最終確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業全体を把握できるような、授業概要が記載されているか</li> <li>・授業の目的及びねらいが的確に表現されているか</li> <li>・授業修了時の達成課題(到達目標)に対応させた授業計画であるか</li> <li>・分野・系統別における単位数に応じた授業時数が確保されているか</li> <li>・予習・復習の参考になるように、各回の具体的な学習内容が記載されているか</li> <li>・授業計画がそれぞれの養成課程としての内容を充足しているかどうか</li> </ul> <p>※授業計画(シラバス)は、新年度開始時4月1日までに作成し、前期授業開始時に公表をする。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.can.ac.jp/denshi/info/information">https://www.can.ac.jp/denshi/info/information</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各科目の※期末考査における評価基準は、原則として以下のとおりである。</p> <p><b>【採点・評価基準】</b></p> <p>A 評価—80～100点</p> <p>B 評価—70～79点</p> <p>C 評価—60～69点</p> <p>D 評価—59点以下再試験対象</p> <p>その他、小テスト、課題の評価、平常の授業態度、出席状況等の資料によって総合的に成績として評価する。</p> <p>※期末考査は、科目ごと出席率80%以上でないとう験することができない。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- 〈成績基準〉 a. 成績は「A、B、C、D」の4段階とする。  
 b. 基準は概ね次の通りである。  
 A評価：成績が「優」である。  
 B評価：成績が「良」である。  
 C評価：成績が「可」である。  
 D評価：成績が不合格である。

上記のように各科目の成績がA～Dで評価されるため、Aを3点、Bを2点、Cを1点、Dを0点と置き換え、その点数を合計する。その合計値の高い方から順位付けを行う。

例)

分類	科目名	履修時数	単位数	成績	分類	科目名	履修時数	単位数	成績
一般科目	現代倫理	6 4	4	A	専門科目				
	コンピュータ数学1	3 2	2	A					
	コンピュータ数学2	3 2	2	A					
	コンピュータ英語1	3 2	2	★					
	コンピュータ英語2	3 2	2	★					
	ビジネス文書技法	6 4	2	C					
	企画書作成技法	6 4	2	★					
	企業研究1	6 4	4	A					
	企業研究2	6 4	4	★					
	小計	2 5 6	1 4						
専門科目	ゲーム開発基礎	1 2 8	4	B	関連科目	小計	5 7 6	1 8	
	ゲーム開発応用	6 4	2	A		プロゼミ	1 9 2	6	A
	ゲームプログラミング基礎	1 2 8	4	A		ゼミナール	1 6 0	5	★
	ゲームプログラミング応用	1 2 8	4	A		職業とキャリア	3 2	1	★
	3DCG基礎	6 4	2	B		インターンシップ	6 4	2	★
	3DCG応用	6 4	2	B					
	実践ゲーム開発	6 4	2	★					
	ウェブシステム設計	6 4	2	★					
	ウェブシステム開発	6 4	2	★					
	オブジェクト指向設計	9 6	3	★					
オブジェクト指向開発	9 6	3	★						
卒業研究	1 9 2	6	★	備考	※ 1時数(1時間)は45分間。 ※ 講義は15時数で1単位、 演習・実習・実験は30時数で1単位、 校外の実習は原則として40時数で1単位				
					総履修時数	1 0 2 4	時間		
					総修得単位数	3 8	単位		

Aが8個、Bが3個、Cが1個、Dが0個の場合、

$3 \times 8 + 2 \times 3 + 1 \times 1 + 0 \times 0 = 31$ となる。

クラス全学生の成績を点数化し、その点数の順位により成績の順位付けを行う。

客観的な指標の算出方法の公表方法

<https://www.can.ac.jp/denshi/info/information/>  
 「学生の手引き」P4に記載。入学時・進級時に配布。事務室にて販売(¥230)

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の条件をすべて満たしたものは「卒業」とすることができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) その科で履修した全ての科目について合格している。</li> <li>2) 学科毎に定められている資格・検定取得がクリアされている。</li> <li>3) 入学から卒業までの全出席すべき日数の出席率が 90%以上である。</li> </ul> </li> <li>・ 上記卒業条件を満たした者は、全教員同席のもと卒業判定会議にて審議され、認定される。</li> </ul>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>「学生の手引き」P5 に記載。入学時・進級時に配布。事務室にて販売（¥230）</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校静岡電子情報カレッジ
設置者名	学校法人中村学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	事務所に備え付けで自由閲覧、学内掲示板
収支計算書又は損益計算書	事務所に備え付けで自由閲覧、学内掲示板
財産目録	事務所に備え付けで自由閲覧、学内掲示板
事業報告書	事務所に備え付けで自由閲覧、学内掲示板
監事による監査報告（書）	事務所に備え付けで自由閲覧、学内掲示板

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		専門課程	ITゲーム&ロボットシステム学科 ゲームシステム研究	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	総授業時数 2,048時間	1104時間	64時間	880時間	0時間	0時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人の内数		15人	0人	3人の内数	4人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 講義・演習・実習・校外実習として実施。授業計画はシラバス参照。
成績評価の基準・方法
（概要） 期末考査・小テスト・課題評価・平常の授業態度・出席状況等の資料によって総合的に評価する。成績はA.B.C.Dの4段階とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 履修した全ての科目について合格している。定められている資格・検定取得がクリアしている。入学から卒業までの全出席すべき日数の出席率が90%以上である。
学修支援等
（概要） クラス担任制による個別指導対応。学生ひとりひとりに向き合い、学生のニーズに対応する。カウンセリングを行う。不得意な科目のフォローをする。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
令和6年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14人 (100%)	0人 (0%)	13人 (92.9%)	1人 (7.14%)
(主な就職、業界等) ITシステム設計・開発、情報通信業			
(就職指導内容) 新卒雇用の動向、産業経済・社会の変化と「求められる人材像」の理解、就職活動の流れ・活動の心得、自己理解 希望する就職先分野の研究、職種の研究、応募書類作成指導（履歴書、エントリーシート）、卒業生との情報交換 三大質問の準備 模擬面接指導 小論文・作文書き方指導 個別面談・指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) C言語プログラミング能力認定3級、ビジネス能力検定3級、社会人常識マナー検定、情報検定（情報活用）2級、Word文書処理技能検定3級、Excel表計算技能検定3級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
令和6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23人	0人	0.00%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学級懇談会における保護者との意見交換、カウンセリング、定期的な学生との個別面談、成績不良者への個別指導		

### ①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業分野	専門課程	ITゲーム&ロボットシステム学科 ロボットシステム研究	○	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	総授業時数 2,080時間	1040時間	64時間	976時間	0時間	0時間
単位時間							
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人の内数	2人	0人	3人の内数	2人	5人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 講義・演習・実習・校外実習として実施。授業計画はシラバス参照。
成績評価の基準・方法
（概要） 期末考査・小テスト・課題評価・平常の授業態度・出席状況等の資料によって総合的に評価する。成績はA.B.C.Dの4段階とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 履修した全ての科目について合格している。定められている資格・検定取得がクリアしている。入学から卒業までの全出席すべき日数の出席率が90%以上である。
学修支援等
（概要） クラス担任制による個別指導対応。学生ひとりひとりに向き合い、学生のニーズに対応する。カウンセリングを行う。不得意な科目のフォローをする。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
令和6年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 新卒雇用の動向、産業経済・社会の変化と「求められる人材像」の理解、就職活動の流れ・活動の心得、自己理解 希望する就職先分野の研究、職種の研究、応募書類作成指導（履歴書、エントリーシート）、卒業生との情報交換 三大質問の準備 模擬面接指導 小論文・作文書き方指導 個別面談・指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） C言語プログラミング能力認定3級、ビジネス能力検定3級、社会人常識マナー検定、情報検定（情報活用）2級、Word 文書処理技能検定3級、Excel 表計算技能検定3級			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
令和6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学級懇談会における保護者との意見交換、カウンセリング、定期的な学生との個別面談、成績不良者への個別指導		

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業分野	専門課程	ITゲーム&ロボットシステム学科 ITスペシャリスト研究	○	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	総授業時数 2,080 時間	1200 時間	64 時間	816 時間	0 時間	0 時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人の内数	7人	0人	3人の内数	3人	6人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 講義・演習・実習・校外実習として実施。授業計画はシラバス参照。
成績評価の基準・方法
（概要） 期末考査・小テスト・課題評価・平常の授業態度・出席状況等の資料によって総合的に評価する。成績はA.B.C.Dの4段階とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 履修した全ての科目について合格している。定められている資格・検定取得がクリアしている。入学から卒業までの全出席すべき日数の出席率が90%以上である。
学修支援等
（概要） クラス担任制による個別指導対応。学生ひとりひとりに向き合い、学生のニーズに対応する。カウンセリングを行う。不得意な科目のフォローをする。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
令和6年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	3人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) システム設計・開発、情報処理・提供サービス業			
(就職指導内容) 新卒雇用の動向、産業経済・社会の変化と「求められる人材像」の理解、就職活動の流れ・活動の心得、自己理解 希望する就職先分野の研究、職種の研究、応募書類作成指導（履歴書、エントリーシート）、卒業生との情報交換 三大質問の準備 模擬面接指導 小論文・作文書き方指導 個別面談・指導			

(主な学修成果 (資格・検定等) ) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理安全確保支援士、IT パスポート試験、C 言語プログラミング能力認定 3 級、ビジネス能力検定 3 級、社会人常識マナー検定、情報検定 (情報活用) 2 級、Word 文書処理技能検定 3 級、Excel 表計算技能検定 3 級
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
令和 6 年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学級懇談会における保護者との意見交換、カウンセリング、定期的な学生との個別面談、成績不良者への個別指導		

### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務分野		専門課程	音響&映像メディア クリエイト学科 音響エンタメ研究	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	総授業時数 2,048 時間	1152 時間	0 時間	896 時間	0 時間	0 時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		29 人	0 人	3 人の内数	5 人	7 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 講義・演習・実習・校外実習として実施。授業計画はシラバス参照。
成績評価の基準・方法
(概要) 期末考査・小テスト・課題評価・平常の授業態度・出席状況等の資料によって総合的に評価する。成績は A. B. C. D の 4 段階とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 履修した全ての科目について合格している。定められている資格・検定取得がクリアしている。入学から卒業までの全出席すべき日数の出席率が 90% 以上である。

学修支援等
(概要) クラス担任制による個別指導対応。学生ひとりひとりに向き合い、学生のニーズに対応する。カウンセリングを行う。不得意な科目のフォローをする。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
令和6年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	18人 (81.2%)	0人 (18.8%)
(主な就職、業界等) 音響、照明、ホール管理、テレビ番組制作、テレビ局内技術スタッフ、一般事務			
(就職指導内容) 新卒雇用の動向、産業経済・社会の変化と「求められる人材像」の理解、就職活動の流れ・活動の心得、自己理解 希望する就職先分野の研究、職種の研究、応募書類作成指導（履歴書、エントリーシート）、卒業生との情報交換 三大質問の準備 模擬面接指導 小論文・作文書き方指導、個別面談・指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 映像音響処理技術者、ProTools 技術検定、Word 文書処理技能認定、Excel 表計算処理技能認定、PowerPoint プレゼンテーション技能認定、社会人常識マナー検定、情報活用検定、ビジネス能力検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
令和6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34人	1人	2.94%
(中途退学の主な理由) 学力的問題による修学意欲低下のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学級懇談会における保護者との意見交換、カウンセリング、定期的な学生との個別面談、成績不良者への個別指導		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務分野		専門課程	音響&映像メディア クリエイト学科 映像メディア研究	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	総授業時数 2,048 時間	1056 時間	0 時間	992 時間	0 時間	0 時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人の内数		13人	0人	3人の内数	5人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 講義・演習・実習・校外実習として実施。授業計画はシラバス参照。
成績評価の基準・方法
（概要） 期末考査・小テスト・課題評価・平常の授業態度・出席状況等の資料によって総合的に評価する。成績はA.B.C.Dの4段階とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 履修した全ての科目について合格している。定められている資格・検定取得がクリアしている。入学から卒業までの全出席すべき日数の出席率が90%以上である。
学修支援等
（概要） クラス担任制による個別指導対応。学生ひとりひとりに向き合い、学生のニーズに対応する。カウンセリングを行う。不得意な科目のフォローをする。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
令和6年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9人 (100%)	0人 (0%)	8人 (88.8%)	1人 (11.1%)
（主な就職、業界等） 映像編集、企画・デザイン、テレビ番組カメラマン、3DCGクリエイター			
（就職指導内容） 新卒雇用の動向、産業経済・社会の変化と「求められる人材像」の理解、就職活動の流れ・活動の心得、自己理解 希望する就職先分野の研究、職種の研究、応募書類作成指導（履歴書、エントリーシート）、卒業生との情報交換 三大質問の準備 模擬面接指導 小論文・作文書き方指導、個別面談・指導 （主な学修成果（資格・検定等））			

映像音響処理技術者、Word 文書処理技能認定、Excel 表計算処理技能認定、PowerPoint プレゼンテーション技能認定、Illustrator クリエイター能力認定試験、Photoshop クリエイター能力認定試験、社会人常識マナー検定、情報活用検定、ビジネス能力検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
令和6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13人	1人	7.1%
(中途退学の主な理由) 学力的問題により修学が困難となったため。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学級懇談会における保護者との意見交換、カウンセリング、定期的な学生との個別面談、成績不良者への個別指導		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
IT ゲーム&ロボット システム学科	230,000 円	798,000 円	198,000 円	施設設備費
音響&映像 メディアクリエイイト学科	230,000 円	798,000 円	198,000 円	施設設備費
修学支援 (任意記載事項)				
CAN スカラシップ、特待生制度、 特別奨学金制度、 遠隔地生活支援奨学金制度、親子兄弟姉妹学業支援奨学金制度				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.can.ac.jp/denshi/wp-content/uploads/2025/05/r06_jikohyoka_e.pdf">https://www.can.ac.jp/denshi/wp-content/uploads/2025/05/r06_jikohyoka_e.pdf</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連分野の代表者、卒業生の代表者 (=最も身近なプロフェッショナルとしての存在) に対し、本学の自己点検・評価について報告。</li> <li>・教育活動全般、学内施設・設備関係、広報的活動、財務等への専門的助言を得る。</li> <li>・教育の質を向上させ、教育の質の担保し、地域の人材ニーズに対応することで、卒業生及び卒業生の就職先 (採用側) の満足度を向上させる。</li> </ul>		
主な評価項目		
1. 教育理念・目標、2. 教育活動、3. 学生受入れ、4. 教職員組織、 5. 施設・設備等、6. 学生生活支援、7. 管理・運営、8. 財務		
評価委員会の構成		
学外の外部委員 定数 5 名 (企業等委員 3 名、卒業生 2 名)		
評価結果の活用方法		
学生生活の基本的な姿勢に関する指導に加え、授業内容の改善や実習方法の改善、そして就職指導に反映させている。また、外部委員の意見を今年度・来年度の教育活動その他の学校運営の改善等に活用する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
SSB ソリューション株式会社 専務取締役	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 8 年 3 月 31 日	企業等委員
株式会社アス 代表取締役社長	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 8 年 3 月 31 日	企業等委員

株式会社システムソフィア 理事	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業等委員
株式会社静岡情報処理センター 医療ソリューション事業部システム部	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	卒業生
株式会社富士データシステム ソ リューション事業部開発課長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.can.ac.jp/denshi/wp-content/uploads/2025/05/r06_kankeishahyoka_e.pdf">https://www.can.ac.jp/denshi/wp-content/uploads/2025/05/r06_kankeishahyoka_e.pdf</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.can.ac.jp/denshi/">https://www.can.ac.jp/denshi/</a>
--